

2007年度 文部科学省

 新たな社会的ニーズに対応した
 学生支援プログラム(学生支援GP)選定

自分発見型学生支援ネットの 構築に向けて

「キャリアデザイン」をプラットフォームとした新たな展開



CONTENTS

HOME

 学生支援GPとは
 取組のコンセプト

現在の取組

これからの取組

キャリアデザイン・カルテとは

自分発見プログラムの導入実績

自分発見ノートの活用

海外インターンシップ

学生支援フォーラム

学生サポートセンター活動

総括

お問い合わせ

 経済学基礎知識1000題
 文部科学省特色GPに選定

「地域創成プログラム」

新着情報

- 2011.03.25 **NEW** 学生支援GP「“自分発見”型学生支援ネット」プログラム 総括-第3回-をアップしました。
- 2011.03.18 学生支援GP「“自分発見”型学生支援ネット」プログラム 総括-第2回-をアップしました。
- 2011.03.14 学生支援GP「“自分発見”型学生支援ネット」プログラム 総括-第1回-をアップしました。
- 2011.01.31 自分発見プログラムの導入 実績をアップしました。

取組の概要

本学は、実績のある「キャリアデザイン」と全学的なコミュニケーション支援システムを駆使することで自分発見する多様な学生のためのプラットフォームをつくり、学生が自分を知り、自分の将来に向けた課題に向き合おうとする場と機会に必要な支援やケアを提供する“自分発見型”学生支援ネットの構築をめざします。

その一方、現代の学生をこうした自分発見に導くには「ケア重視」の支援が必要であり、本学のよき伝統を生かしながら学生サポートの充実をはかります。これによって、本学は、移行期の若者を高い人間力と明確な将来志向をもった人材に育成するという社会的要請に応えます。



2007年度 文部科学省

新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム(学生支援GP)選定

自分発見型学生支援ネットの構築に向けて

「キャリアデザイン」をプラットフォームとした新たな展開



文部科学省の取組

学生支援GPとは？

CONTENTS

HOME

学生支援GPとは

取組のコンセプト

現在の取組

これからの取組

キャリアデザイン・カルテとは

自分発見プログラムの導入実績

自分発見ノートの活用

海外インターンシップ

学生支援フォーラム

学生サポートセンター活動

総括

お問い合わせ

GPとは？

大学・短期大学・高等専門学校等が実施する教育改革の取組の中から、優れたものを選び、支援・情報提供を行うことにより、他の大学等が選ばれた取組を参考にしながら、教育改革に取り組むことを促進し、大学教育改革をすすめています。この「優れた取組」を「Good Practice」と呼び、この言葉を略して、「GP」と呼んでいます。文部科学省では「Good Practice」をキーワードとして、教育方法や教育課程(カリキュラムなど)の工夫改善の取組や、社会からのニーズの強い課題に対応した取組など、大学における学生教育の質の向上を目指す特色のある優れた取組を選び、その取組をサポートしています。

学生支援GPとは？

学生の人間力を高め人間性豊かな社会人を育成するため、各大学・短期大学・高等専門学校における、入学から卒業までを通じた組織的かつ総合的な学生支援のプログラムのうち、学生の視点に立った独自の工夫や努力により特段の効果が期待される取組を含む優れたプログラムを選定し、広く社会に情報提供するとともに、財政支援を行うことで、各大学等における学生支援機能の充実を図るものです。

選定理由(文部科学省発表)

名古屋学院大学においては、学生支援に対して明確な理念と目標を持ち、キャンパス・コミュニケーション・システム(CCS)の導入やキリスト教センターを介した学生サポートを通して、学生支援を積極的に展開しており、十分な成果を上げていると言えます。今回申請のあった「自分発見型学生支援ネットの構築に向けて」の取組は、これまでの取組の上に、早熟な学生に対する支援も視野に入れ、ケアという視点も組み込んで自分発見をサポートする、すべての学生を対象とした大学全体の取組として評価できます。また、この取組は基本的にはキャリア支援ですが、動機や背景は明確で、趣旨・目的は十分意義があり、他に見られない工夫ある取組であると言えます。特に、「早熟」「未成熟」と二極化した学生を対象として多層的に行おうとしている点において新規性があり、これを支える組織体制やCCSの上に有効に機能することが期待され、他の大学等の参考となる優れた取組であると言えます。

文部科学省:大学教育の充実「Good Practice」

[このページのトップへ](#)



取組のコンセプト

自分発見型学生支援とは？

CONTENTS

HOME

学生支援GPとは

取組のコンセプト

現在の取組

これからの取組

キャリアデザイン・カルテとは

自分発見プログラムの導入実績

自分発見ノートの活用

海外インターンシップ

学生支援フォーラム

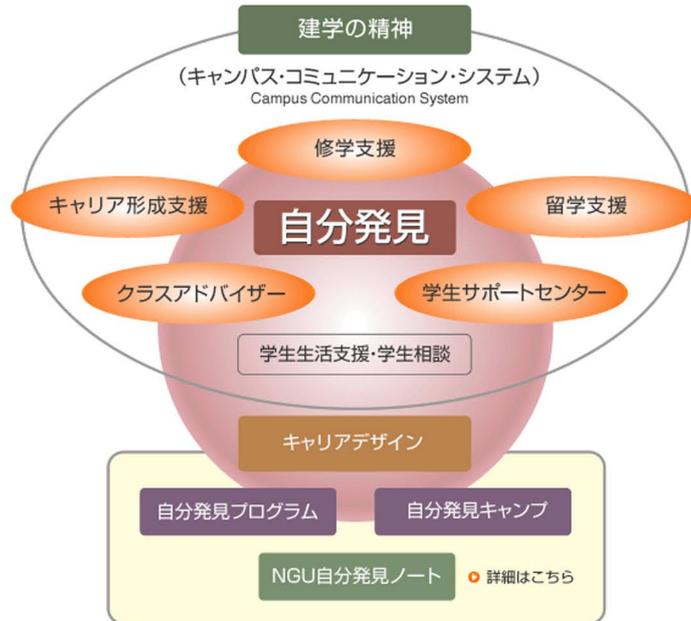
学生サポートセンター活動

総括

お問合せ

多様化する学生のニーズに応じたより効果的な「学生支援」の提供が大きな課題となっています。名古屋学院大学は、学生が自分を知り、自分の将来に向けた課題に向き合おうとする場と機会に必要な支援やケアを提供する“自分発見型”学生支援ネットの構築をめざします。

“自分発見”を多角的にサポートする学生支援ネット



名古屋学院大学では建学の精神である「敬神愛人」をベースに、積極的に学生支援活動に取り組んできました。その最大の特徴は、本学独自のITシステムであるOCS(キャンパス・コミュニケーション・システム)の活用によって学生部・教務部と各センターが相互に連携し、多様な個性を持つ学生に対し全学一体となった支援を行っていることです。

名古屋学院大学が考える“自分発見型”とは？

自分の将来や進路、物事への取り組み方など、意欲的・積極的であるかそうでないかは学生一人ひとりによって違い、抱える悩みや求めるものも異なります。このような学生に対し、従来の“メニュー提示・サービス提供型”の教育ではなく、「自分発見」の場や機会を提供して学生の自主性や積極性を高めるための支援を行うのが“自分発見型”です。「キャリアデザイン」の授業や「自分発見プログラム」「自分発見キャンプ」などを通して自分を客観的に見つめ、単なる自分探しではなく“自分の将来を見据えて、それに向かって進もうとする自分”を発見するサポートを行います。

“自分発見型”学生支援ネットのコンセプト

学生一人ひとりが「自分発見」を実現できるように、3つのコンセプトに基づいて取り組んでいます。

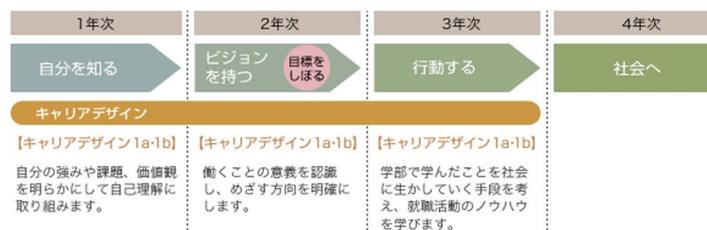
1. 「自分発見」の場や機会を設ける学生支援のプラットフォームとして「キャリアデザイン」を活用。
2. 「自分発見」を通して多様な学生の人的な成長を促すために、「将来志向」と「ケア重視」を兼ね備えた支援プログラムを用意。
3. 学生が「自分発見」する機会と場に必要な支援やケアを提供する、全学的な「自分発見型」学生支援ネットワークの構築。

プラットフォームとなる“キャリアデザイン”とは？

「キャリアデザイン」は、キャリア支援・就職支援のために設けられた正規の授業科目です。1年次から3年次まで6セメスターにわたって、段階的にキャリア形成に向けた意識を養い、具体的な就職対策の基本までを行います。ここでの学修を軸にクラスアドバイザーとキャリアセンターが相互に連携し、学生一人ひとりに合ったきめ細かいキャリア形成を支援しています。

「キャリアデザイン」は、キャリア形成支援の早期の段階(主に1・2年次生)でとりわけ重要な位置にあり、「自分発見ノート」の活用、「自分発見プログラム」「自分発見キャンプ」と連動して、学生が「自分発見」するプラットフォームとなるものです。

キャリアデザインの流れ



NGU学生支援ネットワークの概念



クラスアドバイザー

全学部で1年次から4年次までの全学年に詢かれ、学生支援の中核に位置づけられています。担当教員は、演習やオフィスアワーで学生とふれあい、学生部・教務部や各センターと協力して学生からの問い合わせや相談に応じます。

キャリアセンター

従来の就職部をキャリアセンターに改組し、就職に対する意欲向上やキャリアアップといった総合的な就職支援を、低学年次から実施しています。インターンシップや資格・就職対策講座、就活スタート個人面談や業界セミナーなどを行っています。また、学生に対して十分なケアができる体制の整備、職員の資質向上にも努めています。

[> 詳細はこちら](#)



学術情報センター

学術情報センターには、図書館をはじめ、読書を学べるスペース、パソコンを利用できるスペース、学力や学習状況に合わせて教員や先輩がきめ細かく指導する基礎教育センターなど、各個人の学習スタイルに合わせて学べる空間が広がっています。

[> 詳細はこちら](#)



国際交流センター

開学以来積極的に取り組んできた国際交流の拠点。英米語圏・アジア地域で66大学を数える海外協定校を中心に、短期・中期・長期の留学制度による留学支援や留学生の受け入れ業務を行っています。

[> 詳細はこちら](#)



キリスト教センター(学生サポートセンター)

キリスト教センターの活動をバックに、教師資格を持つ職員がスピリチュアルな面からの支援やケアを展開。「学生相談室」の補完的な役割を果たすとともに、建学の精神に根ざした学生支援の香りを漂わせています。

[> 詳細はこちら](#)



キャンパス コミュニケーション システム (CCS)

CCSとは？

学生・教員・事務局をネットワークで結ぶ名古屋学院大学独自のITシステムです。パソコンや携帯電話などを駆使して24時間、いつでもどこからでもアクセスすることが出来ます。CCSでは、時間割や講義のスケジュール確認、教材や資料のダウンロード、自学自習システム、個人情報管理、コミュニティの開設・参加・閲覧、教職員とのメール連絡、図書館資料の検索等が可能です。

[> 詳細はこちら](#)



CCSによる教育支援

シラバスなど講義に関する情報へのアクセス、教材・課題などの受け渡し、授業アンケート、自学自習システムのほか、図書館資料検索などを行うことができ、学生の学習意欲や教育効果の向上などの成果をあげています。

CCSによるコミュニケーション支援

CCSでは教育支援だけでなくコミュニケーション支援の機能も重視しています。担当教員との連絡や質問ができたり、教務課や学生課などの部署に個別に質問や相談ができたり、学生同士の意見交換の場となるコミュニティ機能も備えています。

自分発見型学生支援ネットの構築に向けて

「キャリアデザイン」をプラットフォームとした新たな展開



これからの取組

キャリアデザインをプラットフォームとした新たな展開

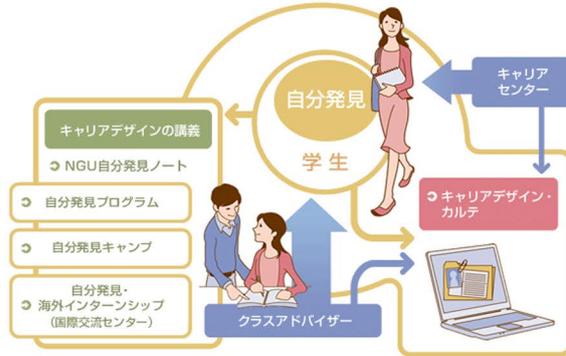
CONTENTS

- HOME
- 学生支援GPとは
- 取組のコンセプト
- 現在の取組
- これからの取組
- キャリアデザイン・カルテとは
- 自分発見プログラムの導入実績
- 自分発見ノートの活用
- 海外インターンシップ
- 学生支援フォーラム
- 学生サポートセンター活動
- 総括
- お問合せ

実績のある「キャリアデザイン」と、全学的なコミュニケーション支援システムを駆使したプラットフォームを作り、自分発見型学生支援ネットの構築をめざします。

自分発見型学生支援ネットの構築

本プログラムのプラットフォームとなる「キャリアデザイン」をさらに拡充し、「自分発見」の主要な場や機会を数多く提供します。



NGU自分発見ノート

学生が自分発見のプロセスと内容を確認できるノートを開発し、クラスアドバイザーとの面談や、キャリアセンターでの進路相談などに活用します。「キャリアデザイン」や「基礎演習」の副教材として使用して作成した後、4年次で就職支援を始める段階まで活用できるように設計します。



自分発見プログラム

学生の将来志向や能力に応じた多様なクラスを用意します。より高い自己実現を求めるクラスと、自己理解・職業理解・コミュニケーション能力で自分を高めようとするクラスに分けて開講する点に大きな特色があります。2007年度は、「体験！仲間づくりのコミュニケーション」「自分をよく知る」「私のキャリア・プランニング」「基礎学力ブラッシュアップ」の各種講座を開講しました。

自分発見キャンプ

「キャリアデザイン」の成果に応じて、1年～3年次の夏休み直前に合宿形式で行う追加授業です。早い段階に密度の高い特別なプログラムを提供することで、自分発見の大きなチャンスとなります。

自分発見・海外インターンシップ(国際交流センター)

自分発見とキャリア形成の機会を海外にも広げるため、特色と実績のある留学支援をベースに、英語圏や中国語圏のインターンシップに派遣します。

キャリアデザイン・カルテ

OCSに、学生の自分発見につながるようなキャリア形成支援に関連した項目「キャリアデザイン・カルテ(CDC)」を追加します。カルテは学生・教員・職員の間で共有でき、「キャリアデザイン」の授業や「NGU自分発見ノート」の作成を通じて学生とクラスアドバイザーで記入します。そうすることで「キャリアデザイン」が学生支援ネットのプラットフォームとして活用できるようになるとともに、OCSもこれまで以上に学生の自分発見のためのコミュニケーション支援としての役割を強化することができます。

>キャリアデザイン・カルテの詳細はこちら

学生サポートセンターの新たな展開

学外からスピリチュアル・ケアの専門家を招き、学生のためのワークショップや、教職員のための研修会を開催します。そうした中から自分を発見し、積極的な活動(ボランティア・地域活動など)を行おうとする学生を支援します。

FD・SD(教員・職員の資質開発)による学生支援能力の向上

修学指導・学生指導やキャリアアドバイザーにとどまらず、「将来志向」と「ケア重視」の視点から学生を支援できる意識と能力を高めるため、講習・研究会・講演会を通してFD・SD活動を展開します。

社会が求める人材の育成に効果を発揮

自分発見型学生支援ネットによって、次のような効果が期待されます。

1. 早期のキャリア形成

早い段階からキャリア形成のプログラムを実施することで、多様な学生が将来を見据えた活動を積極的に展開するようになります。

2. 個別のケアを重視

自分のキャリア設計に戸惑う学生や悩みを抱える学生に対して、これまで以上に個別のケアを重視したセーフティネットが形成されます。

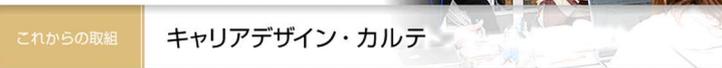
3. 支援ネットのモデル構築

OCSを利用したキャリア形成支援を強化することで、全学的な支援ネットの構築が進み、新たな学生支援のモデルとして学内外に発信します。

4. 社会的要請に応える

学生ニーズに応じた効果的な学生支援の提供を通して、より多くの学生が充実した学生生活を送り、社会へ羽ばたく可能性を広げます。

このページのトップへ



これからの取組

CONTENTS

HOME

学生支援GPとは

取組のコンセプト

現在の取組

これからの取組

キャリアデザイン・カルテとは

自分発見プログラムの導入実績

自分発見ノートの活用

海外インターンシップ

学生支援フォーラム

学生サポートセンター活動

総括

お問合せ

キャリアデザイン・カルテ

- 携帯電話版CCS「キャリアデザイン・カルテ」ページ(2009年度追加機能)
- CCS「キャリアデザイン・カルテ」ページへのコメント投稿機能(2008年度追加機能)
- CCS「キャリア・就職 コミュニティ」ページ(2008年度追加機能)
- CCS「キャリア・就職」ページ
- CCS「キャリアデザイン・カルテ」ページ

携帯電話版CCS「キャリアデザイン・カルテ」ページ(2009年度追加機能)



- A. 携帯電話版CCSのトップページです。
- B. 携帯電話版キャリア・就職支援メニューページです。
- C. 携帯電話版キャリアデザインカルテです。
パソコンが使えない場所でも携帯電話からカルテの記入、参照ができます。
- D. 携帯電話版キャリアデザインカルテの記入画面です。

このページのトップへ

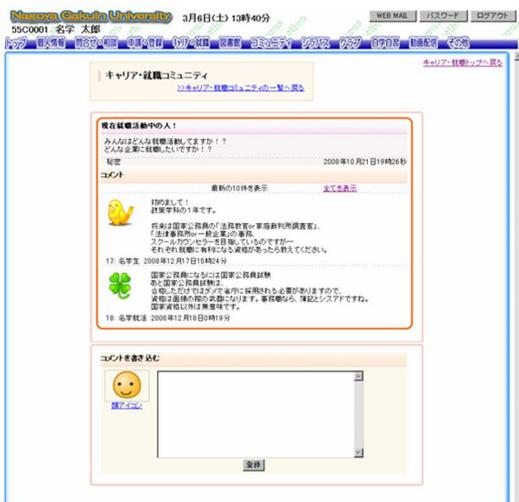
CCS「キャリアデザイン・カルテ」ページへのコメント投稿機能(2008年度追加機能)



ハンドルネームを設定して、他の学生のカルテにコメントを投稿することができます。カルテ検索で見つけた自分と同じ業界に興味をもつ学生と情報の交換ができるようになりました。

このページのトップへ

CCS「キャリア・就職 コミュニティ」ページ(2008年度追加機能)



キャリア・就職に関することを電子掲示板形式で情報交換することができます。同じ興味や悩みを持つ学生と互いの意見交換がされたら、わからないこと、もっと知りたいことについての質問に他の学生や教職員が答えてくれたりします。

CCS「キャリア・就職」ページ



- A. メインメニュー
- B. 他の学生のカルテを検索する事ができます。気になる業界や単語を検索し、自分と同じ業界に興味を持つ学生のカルテを閲覧すると刺激になるでしょう。(個人情報非表示)
- C. 事務部署からのキャリア・就職に関するお知らせが表示されます。(CCS掲示板と連動)
- D. 資格・就職対策講座、インターンシップ、自分発見プログラムの情報が表示されます。興味のある講座をクリックすると詳細ページへ飛びます。
- E. 就職情報サイトへのリンク集。「J-NET」は本学に届いた求人情報などが閲覧・検索可能。
- F. カルテに記入した目標に対する達成率をグラフで表示します。

このページのトップへ

CCS「キャリアデザイン・カルテ」ページ



- A. カルテに記入した目標に対する達成率をグラフで表示します。
- B. 自分発見ノートに記入した自身の目標等をカルテに入力します。このカルテは学生自身が管理し、一年間かけて目標に向かって活動していきます。
- C. 現在受講している資格講座や過去に受講した資格講座の情報を確認できます。
- D. キャリアや就職に関する各種アンケートに回答・結果を閲覧する事ができます。
- E. 学生のカルテに対して、教員や事務部署からのアドバイスが記入されます。

このページのトップへ

自分発見型学生支援ネットの構築に向けて

「キャリアデザイン」をプラットフォームとした新たな展開

特集

自分発見プログラムの導入実績

CONTENTS

HOME

学生支援GPとは

取組のコンセプト

現在の取組

これからの取組

キャリアデザイン・カルテとは

自分発見プログラムの導入実績

自分発見ノートの活用

海外インターンシップ

学生支援フォーラム

学生サポートセンター活動

総括

お問合せ

2007年よりスタートした、本学ならではのOCS(キャンパス・コミュニケーション・システム)を活用した“自分発見型”学生支援の取り組み。その取り組みの鍵となるのが、学生が“自分発見”するためのプラットフォームとなる「キャリアデザイン(※)」です。

将来設計に「キャリアデザイン」をどう生かしているのか、今まさに目標を定める段階にいる2年次の学生に、これまでの活動や将来のビジョンについて話を聞きました。

※「キャリアデザイン」とは…キャリア支援・就職支援のために設けられた正規の授業科目。1年次から3年次まで6 Semesterにわたって、段階的にキャリア形成に向けた意識を養い、具体的な就職対策の基本までを行う。「自分発見ノート」の活用、「自分発見プログラム」「自分発見キャンプ」と連動して、学生が「自分発見」するためのプラットフォームとなるもの。

外国語学部英米語学科2年 増田翼さん

キャリアデザインはどのようなことに役立ちますか？

「自分発見プログラム」の講座は、これから始まる就職活動に役に立つと思います。講座は一般常識やSPなど5種類あり、各講座の最後にテストを受けて学習の成果を試せるようになっていきます。苦手な数学をしっかりと学べたり、SP模試を受けることができたのは、とても良かったです。



外国語学部英米語学科
2年 増田翼さん

将来の目標は定まっていますか？



まだはっきり決定したわけではありませんが、今の時点では外国語関係の方向に進むか、または日本語教員になろうかと考えています。これから日本語教員の講座を受講するつもりです。

日本語教員になろうと思ったのは、1年の春休みに短期でオーストラリア留学をしたのがきっかけでした。現地で英語を教えている先生がいて、とても楽しそうに授業をしていたんです。その教室には国も年齢も職業もさまざまな人たちが通っていて、そういう人たちが同じ一つのクラスで勉強している様子がとても新鮮で面白いと感じたので、自分もそういう仕事をしてみたいと思ったんです。

オーストラリアに短期留学したのはなぜですか？

一番の目的は、やはり英語の向上です。日本で学んでも英語の能力を高めることはできるとは思いますが、海外に行ったほうが得るものがより多く、語学力も上がりやすいのではないかと思います。

期間は45日間と短かったですが、昼間は学校に行き、放課後は現地でできた友だちと一緒に交流して、とても楽しくて有意義な経験ができました。お世話になったホストファミリーとは家族のように親しくなって、今でも連絡を取り合っています。

これからやってみたいことはありますか？

今年も春休みを利用して、アメリカのアイオワ州に留学に行きます。あと、日本に来ている留学生が日本人に英語を教える「英語サロン」というのを大学が開催しているので、それも受ける予定です。

そして、もう一つやりたいと思っているのが日本語教員のボランティアです。外国人に日本語を教える、ボランティア日本語教員を国際センターで募集しているので、それに応募してみるつもりです。来年から就職活動が始まるので、目標に向かっていろいろな活動をしていこうと思います。



[このページのトップへ](#)

自分発見型学生支援ネットの構築に向けて

「キャリアデザイン」をプラットフォームとした新たな展開



特集

CONTENTS

HOME

学生支援GPとは

取組のコンセプト

現在の取組

これからの取組

キャリアデザイン・カルテとは

自分発見プログラムの導入実績

自分発見ノート

海外インターンシップ

学生支援フォーラム

学生サポートセンター活動

総括

お問合せ

自分発見ノートの活用

本学ならではのOCS(キャンパス・コミュニケーション・システム)を活用した「自分発見型学生支援」の取り組みが、2007年よりスタート。2008年4月からは「自分発見ノート」が本格的に導入され、学生のキャリア形成支援をより充実させてきました。そこで「自分発見ノート」の制作に携わった三井哲教授と、実際に「自分発見ノート」を使っている学生に、導入の経緯から、現在の活用状況などについてインタビューしました。

○ 「自分発見ノート」とは

○ 第1回 教授インタビュー「自分発見ノート」の意義(2008年11月25日UP)

○ 第2回 教授・学生インタビュー「自分発見ノート」とサポート体制(2008年12月3日UP)

○ 第3回 学生インタビュー 自分発見ノートを使った感想(2008年12月9日UP)

第1回 教授インタビュー 「自分発見ノート」の意義

商学部 三井 哲教授(キャリアセンター長)

「自分発見ノート」の目的を教えてください。



「自分発見ノート」には二つの方向性があります。まず一つめは、1年次から3年次までの学生が履修する「キャリアデザイン」の授業の副教材として使用します。そしてもう一つは、クラスアドバイザーによる少人数のゼミナール形式の授業(商学部では「教養演習」)で教材として使用します。

「キャリアデザイン」とはどんな授業ですか。

3年間で段階的に就職・進路決定に向けての準備をしていく授業です。1年次では、職業に関する自分の興味・関心、特性を自覚することに始まり、2年次でさまざまな社会・経済動向や雇用環境の変化などを勉強し、3年次になると、より実践的な就職試験対策まで取り組むという流れになっています。

授業では「自分発見ノート」をどのように使うのですか。

キャリアデザインの授業で、関連する単元を授講した際に、「まとめ」として記入させて提出・確認します。また、自分の今までの振り返り、自分の特性を整理してもらうようにしています。また、「自分発見ノート」はOCSと連携していますので、学生はノートに記入した内容を、OCSの中にある「キャリアデザイン・カルテ」に入力します。キャリアデザイン・カルテの内容は、クラスアドバイザーやキャリアセンターの職員も確認することができますので、個別にアドバイスをしたり、進路相談の参考資料として用いたりできるようになっています。



「教養演習」では「自分発見ノート」をどのように使うのですか。

名古屋学院大学では、入学時から、クラスアドバイザーによるゼミナールの時間が設けられており、きめ細かい支援ができるよう1クラス15人ほどの少人数体制になっています。特に1年次のゼミナールでは、新入生に本学のことをよく知ってもらい、一日も早く充実した学生生活を送れるようサポートします。自分発見ノートの中に「テレオス」というコラムが4回分あり、キャンパス施設や各種相談窓口、OCSを活用した学生支援などについて紹介しています。ゼミナールの時間ではテレオスの内容をベースに、大学生活を送るにあたって必要な情報や知識などを伝えていきます。

>> 第2回 教授・学生インタビュー「自分発見ノート」とサポート体制へ

このページのトップへ

2010年度

2009年度



「自分発見型学生支援ネット」の取組の一貫として、2008年から始まった海外インターンシッププログラム。本年度は、東南アジアに造詣の深い飯島滋明先生の企画による「ラオス」での実習プログラムが実施されました。日本と同じアジアの国でありながらあまりなじみのないラオスにスポットを当てた意図、プログラムの具体的な内容、現地の様子などについて、飯島先生と参加した学生にお話を伺いました。

● 第1回 教授インタビュー 東南アジアへのプログラム導入の意図 (2010年10月29日UP)

● 第2回 学生インタビュー 海外インターンシップに参加した感想 (2010年11月5日UP)

● 第3回 教授・学生インタビュー 東南アジアプログラムの成果、感想、今後の要望 (2010年11月12日UP)

第1回 教授インタビュー 海外インターンシップ導入の意図

経済学部 飯島滋明准教授

―海外インターンシップを取り入れた目的を教えてください。

国外でインターンシップを行うことにより、国内で行う場合はまた違ったものを学ぶことができるだろうという期待から、海外インターンシップを取り入れました。アメリカやヨーロッパではなく東南アジアの国(ラオス)を先に選んだのは、日本はアジアの一員だからということが一つ。そして、アジアへの広い見識を持ってもらい、アジアに対する偏見を取り払ってもらいたいという思いもありました。たとえば、ラオスにはリクルートスーツを作っている企業があります。また、備長炭ですらラオスでも作られています。そしてそれらの物が、日本の大型ショッピングセンターなどで販売されています。インターンシップでそういう現実を学ぶことで「東南アジアは私たちの生活に関わりがあるんだな、ということを感じてもらえたと思ったんです。アジアの国々と仲良くしていかなければ今後の日本の経済や社会は成り立たない、国際社会のつながりがいかに大切か、ということを感じてもらおうが一番の目的でした。

―プログラムの計画から実行までの経緯を教えてください。

まず行き先をラオスに決めた理由ですが、東南アジアの国々の中でも特に治安が良く、自然も豊かで、アメリカやヨーロッパでも人気のある国だということで決定しました。それから現地に下見に行き、期間中に滞在するホテルを探したり、企業を何カ所も回って関係者の方々に話を伺ったりしました。そして、ここから学生にとって学ぶものが多いだろうという企業を20社以上ピックアップし、そのうちの10社ほどを実習先として選びました。

下見が終わったプログラムの内容が整ったところで、国際センターに学生への募集をしてもらい、最終的に男子3人、女子5人、合計8人の学生の参加が決まりました。その後、プログラム実施に向けて3回の説明会を行いました。語学研修については、実は事前にも現地に行っただけで、出発前に「こんにちは」「ありがとう」を覚えておいてもらった程度です。むしろ語学よりも、ラオスがどういう国かを知ってもらうことが大切だと思ったので、事前にラオスについて調べてもらい、説明会の最後の日に調べたことを発表する時間を設けました。また、旅行会社の人にも説明会に参加してもらい、現地のことや安全対策などについて説明してもらいました。



―プログラムの具体的な内容について教えてください。

格別なので、身体を慣らすことが必要だったからです。また、ラオスの文化に触れることも大切なので、現地のガイドさんに寺院などを案内してもらいました。



首都ビエンチャン市内を見学



実習は3日目から行い、毎日8人そろって実習先に伺いました。実習先は王子製紙、ラオス日本センター、サンティアゴ、TSB、ラオ山荘、地雷博物館、日本大使館、農村、ホワイホン職業訓練センター、備長炭工場です。それぞれに貴重な体験をさせていただきましたが、特に大使館への訪問は格別だったと思います。大使館で直接お話しできる機会などなかったのではないですかね。



ラオス日本センター



ホワイホン職業訓練センター

1日の日程が終わったら、ゲストハウスに戻ってみんなで意見交換したり、感想を話し合ったりしました。学生の話も聞いて、私もいろいろ教わることができました。

―今回のインターンシップの課題や次回に向けての構想はありますか。

かなりラオスのことを学んでもらいましたが、これで終わりだとは思ってほしくないんです。今回のインターンシップで触れた部分だけでなく、ラオスにはもっといろいろな問題があることを分かってもらいたいので、そういう学習ができるようなプログラムを計画してみたいというのが課題です。今回は初めてのプログラムだったので、学生の健康面などに配慮して都市部を中心に行動しましたが、できれば都会だけでなく郊外や山の中などにも行ってみたいですね。そうすると、また違ったものが見えて勉強になるだろうと思います。

>> 第2回 学生インタビュー 海外インターンシップに参加した感想 (2010年11月5日UP)

見型学生支援ネットの構築に向けて

デザインをプラットフォームとした新たな展開



特集	<p>学生支援フォーラム 「多様な学生に向きあう現代の大学像—学生支援の新たなあり方を求めて—」</p>
EVENTS	<p>11月18日(水)の13時30分から17時まで、名古屋キャンパス白鳥学舎にて、学生支援フォーラム「多様な学生に向きあう現代の大学像—学生支援の新たなあり方を求めて—」が開催されました。</p> <p>当日は、全国の大学関係者を中心に91名(大学関係84、一般6、高校関係1)の参加があり、同志社大学の西村卓由による基調講演、文部科学省GPプログラムに選定された大学の事例報告、講演によるパネルディスカッションで議論を深めることができました。</p>
支援GPとは	
コンセプト	
教組	<ul style="list-style-type: none"> ● 基調講演「同志社大学における学生支援の取組みについて」(2010年01月21日UP)
らの取組	<ul style="list-style-type: none"> ● 事例報告(2010年01月21日UP)
デザイン/カルテとは	<ul style="list-style-type: none"> ● パネルディスカッション(2010年01月21日UP)
プログラムの導入実績	<ul style="list-style-type: none"> ● 実施報告書(PDF)
電子ノートの活用	
インターンシップ	
学生フォーラム	
ポートセンター活動	
さ	<p>※OCS=学内のネットワークを利用して学生・教員・職員の3者をつなぐシステム。</p>

1. 自分発見型学生支援ネットの構築に向けて

小林甲一(名古屋学院大学 学生部長)

本学ではOCS(キャンパスコミュニケーションシステム)の中で学生支援のネットワークを構築してきた。多様な学生に対応していくため、従来の取組みに「キャリアデザイン」というプラットフォームをかみ合わせて、新たに「自分発見型学生支援ネット」を構築した。

一 学生支援の現状(これまでの取組み)

- ・ 学生が修学生活を送るうえで「寄り添い」なる「クラスアドバイザー制」
- ・ 1年次からのインターンシップなど、キャリアセンターでは早期からのキャリア形成を支援。また、「キャリアデザイン」という授業を実施。
- ・ 学生・教員・事務局をつなぐOCSを活用したコミュニケーション支援など
- ・ 国際交流センターによる留学支援や、学生サポートセンター(キリスト教センター)による支援。

一 キーワードは「自分発見」

新たな取組みの「自分発見」とは、「学生が自分を理解し、自分の将来を見定めて自分の課題を克服し成長すること。学生が自立した職業生活のできる人間へと成長するうえで重要なプロセス、大学の中しっかりと用意したい。そのために「将来志向」と「ケア重視」の両方を組み合わせた学生支援を進めたいと考えた。

一 新たな取組みの概要

キャリアデザインの拡充に取り組んでいる。キャリアデザインや基礎演習の副教材として、1・2年生向けの「自分発見ノート」を活用。早期のキャリア形成支援のための「自分発見プログラム」を用意。キャリアデザインの授業についてこれない学生、それに満足できない学生に対し「自分発見キャンプ」として合宿形式の特別なプログラムを提供。

さらに、OCSに「キャリアデザインカルテ」を追加し、キャリア形成支援、就職支援、就職に関するフォローができるようにした。

一 期待される効果と今後の課題

学生支援のセーフティネット、OCSとキャリア形成支援の新しいかたちの構築。退学離籍者や留年者の減少といった効果が期待される。自分発見ノートに関しては導入教育の副教材として定着し成果を上げているが、キャリアデザインカルテの活用方法については課題が残る。自分発見プログラムに関しては、成果をいかにキャリアデザインの授業に活かしていくかが課題。学生支援ネットワーク自体はOCSを基本に十分整備されたが、新たな取組みについては学内の連携強化が必要である。



2. 大学と学生をむすぶ支援メッシュの構築

加藤大樹氏(名古屋大学 学生相談総合センター特任助教)

名古屋大学では平成19年度に学生支援GPの採択を受け、学生支援の取組みを開始。取組みの中で学生と関わり見てきたこと、そこから感じたことを中心に報告する。

一 取組みの背景

名古屋大学では「学生相談部」「メンタルヘルス部」「就職相談部」の3本の体制で、個別相談を中心として学生支援の体制づくりを行ってきた。しかしこうした体制だけでは救いきれない、ひきこりの問題に対する大学としてのケアなど新たな課題が見えてきた。さまざまなニーズを持った学生、いろいろな悩みを抱えた学生がいる中で、待ち受けて相談に応じるシステムとは異なるシステムの必要性が問われ、学内の「潜在的支援力」を活用した学生支援を展開することになった。

ピアサポートや就活サポーターなど、先輩学生が後輩学生の支援をする学生相互支援の仕組みを進めてきた下地もあり、学生が自ら関わるようなグループを学生支援の取組みに導入し、点と点の学生支援を網目状に結び、学生に対するセーフティネットを作る「メッシュ」を展開する。

一 グループの歩み

総合大学としての豊富な知的・文化的・人的資源を学生支援の潜在的支援力として捉え、教職員がそれぞれの専門や趣味を活かして「ファシリテーター」としてグループに参画し支援に関わる。また、大学院生もPA(プラクティス・アシスタント)として活動をサポート。さらに、これらの教職員や大学院生のアシスタントをつなぐ存在としてオーガナイザー(臨床心理士2名、自然科学の専門家1名)を置く。

初年度(平成19年度後期)は「コレクション自慢の会」「自然観察の会」の2つのグループを開催。現在は「海岸生物を見る会」「フワフワアレンジメントの会」「産業なんでも見学会」のほか10以上のグループを開催している。また、今年度の4月からSNS「MINT」を立ち上げ、学生同士のコミュニケーションツールとして運用。



一 グループを通じた学生支援の成果と課題

大学生活をより充実したものにするための予防的効果として機能している点、従来とは異なる新しい支援の形が学生が感じている点などが成果として挙げられる。今後の課題は、学内の資源をいかに有効に活用していくか、学生主体のグループづくりとコーディネートする教職員のバランスをいかに取っていくかということ。また、取組みの成果をどう残すかを考える必要もある。

3. 学生支援推進プログラム「関わりあい、教えあい、学生相互の支援活動と協働活動の創生」初年度の取組み

森山幹弘氏(南山大学 学生部長)

本年9月から活動を開始した学生支援推進プログラムの取組みに関し、進捗状況や今後の計画等について報告する。

一 プログラムの目的

最近の傾向として、学生自らがどのように力を付けるかが問題になっている。各大学の学生の体質などを加味しながら何を提供し、どう育てていくかが重要であり、南山大学の学生に対する教育、力を付けさせる方法を念頭に置いて学生支援推進プログラムを立ち上げた。プログラムの出発点は、教え合い、学び合う中で学生に習得させたい、という思い。そうした中で、学生の人間力が育成され力が付くと思う。

3年の採択を受けた中で、初年度である本年度は「キャリア形成」、来年度は「勉学支援」、最終年度は「課外活動支援」を重点項目として上げ、プログラムを進めている。



一 プログラムの取組み内容

学生交流センター「セントラム(CENTRUM COMMUNITATIS)」を設置し、学生がグループを形成したときにアドバイスを行なう場所として機能させる。学年を超えた縦のグループの形成、学科学部を超えた横のつながりの形成などが狙い。クラブやサークルに参加していない学生をコミュニティに参加させることで、ネットワークを作る力を付けさせようという考えに基づき、10月よりグループが形成されつつあり、学生コア・グループとTA間の情報共有、情報交換、コミュニケーションの場として機能している。2010年春には瀬戸キャンパスに学生交流センターをオープンする予定。

そのほかの取組みとしては「質問紙調査の作成」「合宿および連携合宿の開催」「学生向け講演会・ワークショップ開催」「公式Webページの立ち上げ」「チラシ・パンフレット・ニュースレターの作成」などがある。

一 これまでの気づきと今後の思い

TAやコアになる学生に動みされ、やる気のある学生がいるという手応えを感じる。当初、学生交流センターは開設していたが最近では大変賑わっており、何かを動かそうという学生のモチベーションが高まっている。学生の良い面をさらに伸ばしていきたいという気持ちも強まっている。また、今後はGPに関する教職員の意識啓発を目的に、FD活動や勉強会なども行なっていく。

» パネルディスカッション(2010年01月21日UP)

